

私の人生 (山田結衣)

URL : <https://youtu.be/2hUSxD1pPYs>

今回は「私の人生」を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には " ふりがな " があります。
後半は少しだけ速く (+20%) なり、漢字に " ふりがな " はありません。
学習にお役立てください。

■私の自己紹介

はじめまして、山田結衣です。私は日本の神奈川県、鎌倉市という町で「Café Yui」というカフェを経営しています。鎌倉は、古いお寺や神社が多く、かんこう客がたくさんおとずれる町です。海が近く、しぜんもゆたかで、とてもうつくしいところです。そんな鎌倉で私は、地元のしょくざいを使った料理や、抹茶を使ったスイーツをていきょうしています。中でも、抹茶チーズケーキが人気です。

私がカフェをオープンしたのは、31歳のときです。大学を卒業してからは、大手の会社ではたらいていましたが、次第に「自分のカフェを持ちたい」という気持ちが強くなりました。29歳のときに会社をやめ、カフェを開くためのじゅんびを始めました。お店のコンセプトやメニュー、ないそうなど、どれも私が一から考えました。特に、地元の食材を使った料理をていきょうすることを大切にしています。

しかし、カフェを始めてすぐに大きなもんだいが発生しました。それは、世界中で新しい病気が広がり、外出することがむずかしくなったことです。お客さんが来なくなり、お店の経営がとても悪くなりました。でも、私はあきらめませんでした。持ち帰り用のメニューを作ったり、地元の農家に協力してもらって新しい商品を考えたりして、少しずつお店を立て直すことができました。今では、地元の人たちやかんこう客に支えられ、カフェはまたにぎやかになっています。

これからも、地域の人たちと協力しながら、カフェを成長させていきたいと思っています。

■幼少期：家族と育った環境

私は神奈川県かながわの鎌倉市かまくらで生まれ育ちました。私の名前「結衣」には、両親りょうしんのとくべつな想おもいが込められています。父ちちと母ははが「人と人を結ぶ、温かい存在あたたかになってほしい」とねがって、私わたしに「結」という名前なまえをつけてくれました。鎌倉は、しぜんがゆたかで、海うみも山やまも近く、子ども時代こどもじだいはそのしぜんの中でよくあそびました。家族かぞくは、父ちち、母はは、姉あね、妹いもうと、そして私の5人家族ごにんかぞくです。私は3人姉妹さんにまいの真ん中まなかで、姉あねと妹いもうとといっしょに過ごす時間じかんが多おほかったです。家族かぞくはとても仲なかが良く、毎週末まいしゅうまつにはいっしょに出かけたり、家でゲームたのをしたりして楽しんでいました。

父ちちは銀行ぎんこうではたらいていて、まじめでせきにんかんが強い人つよひとです。仕事しごとでも家庭かてでも、せいじつさを大切たいせつにしている、家族かぞくのためにいっしょうけんめいにはたらいてくれました。そんな父ちちを見て、私わたしも「せきにんを持って行動こうどうすること」の大切たいせつさを学びました。母はははせんぎょうしゅふで、いつも家族かぞくのことを考えてくれました。いつもおいしい料理りょうりを作つくってくれて、家はいつも温かいふんいきに包つつまれていました。母ははは「かんしゃの気持ちきもちを忘わすれないこと」が大事だいじだとよく言いっていました。私わたしが人ひととのかんけいを大切たいせつにするようになったのも、母ははのおかげです。

幼少期ようしょうきの私わたしは、外そとであそぶことが大好きだいすきで、友だちともといっしょに公園こうえんでかけっこをしたり、ひみつきちを作つくったりして過ごしていました。近所きんじよの友だちともとはいまでも仲なかが良く、たまにカフェよにあそびに来てくれることもあります。また、小さいころから人ひとを楽しませることが好きで、よく家族かぞくに手作りてづくのお店みせごっこをしてもらっていました。今思いまおもえば、このころから、「いつか自分じぶんのお店みせを持ちたい」と考えるようになったのかもしれない。

こうして私わたしは、家族かぞくにかこまれ、支ささえられてせいちょうしました。両親りょうしんや姉妹しまいとの時間は、今でも私わたしにとって大切たいせつな思い出おもいでです。そして、このときのけいけんが、今の私わたしのかちかんや、カフェ経営けいえいの夢ゆめにつながっていると感じています。

■小学校時代：学級委員と友だちとのあそび

私の小学校時代しょうがっこうじだいは、とても楽しい思い出おもいでがたくさんあります。私はクラスわたしの「がっきゅういいん」をしていて、学校がっこうの行事ぎょうじやクラスのかつどうをまとめるやくわりを任まかされていた。クラスまかのみんなを引ひっぱっていくことは少し大変すこでしたが、友だちともの協力きょうりょくもあって、行事ぎょうじやプロジェクトせいこうを成功せいこうさせることができました。このじきに「リーダーシップ」や「せきにんかん」を学まなんだことは、あとの人生じんせいでとても役立やくだっています。

また、私は友だちといっしょにあそぶのが大好きでした。特に学校が終わったあとは、近所の公園で友だちと走り回ったり、かくれんぼをしたりしていました。外であそぶのはいつも楽しくて、時間が経つのを忘れるほどでした。特に好きだったのは、友だちといっしょに「ひみつきち」を作ることです。木やダンボールを使って小さなきちを作り、そこに集まっておかしを食べたり、いろいろな話をしたりして過ごしていました。このあそびを通じて、私は「ものを作る楽しさ」を感じるようになったと思います。

図工の時間も私の好きな時間の一つでした。いろいろな素材を使って作品を作るのがとても楽しかったです。学校の図工のじゅぎょうでは、よく絵を描いたり、ねんどで工作をしたりしました。このそうぞうてきな時間が、のちにカフェのインテリアやメニューはいはつに役立ったと感じています。自分のアイデアを形にする楽しさを、このじきに知りました。

また、小学校時代の友だちとは、今でもれんらくを取り合っています。ときどき、彼らが私のカフェにあそびに来てくれることがあり、当時の思い出話をし笑い合います。小学校時代の友情は、今でも私にとって大切な宝物です。こうして私は、小学校時代に友だちといっしょに楽しい時間を過ごし、いろいろなけいけんを通して成長しました。この頃に学んだ「リーダーシップ」や「そうぞうりよく」が、今の私のカフェ経営にもつながっていると感じます。

■ 中学時代：図書委員と読書の楽しみ

中学時代は、私にとって少し落ち着いたじきでした。特に本を読むことが好きで、学校の「としょいいん」としてかつどうしていました。としょいいんの仕事は、他の生徒が本を借りたり返したりするのを手伝うことでしたが、私はその仕事がとても好きでした。本に囲まれていると、とても安心できる気持ちになったのを覚えています。特に、ぼうけんしょうせつやファンタジーの本が好きで、現実とはちがう世界に心を引き込まれるかんかくが楽しかったです。

としょいいんとしてのかつどうを通じて、私は「計画を立てて仕事を進めること」や「他の人のためにはたらくこと」の大切さを学びました。いいんかいでみんなと協力してイベントを考えたり、新しい本の紹介をしたりするのが楽しかったです。このけいけんを通じて、私は少しずつリーダーシップをはっきするようになりしました。のちに、カフェを経営するときにも、こうした「計画力」や「協力すること」のじゅうようせいを思い出すことが多かったです。

また、読書を通じて私はさまざまなことを学びました。本は私に多くのちしきや考え方を教えてくれました。たとえば、人とのコミュニケーションの取り方や、他の文化について知ることができたのも、読書のおかげです。ものごとを通していろいろな人生にふれることで、自分の世界が広がり、それがのちに「自分のお店を持つ」という夢にもつながっていきました。

中学時代は、ぶかつどうよりもこうしたしずかなかつどうを楽しんでいたじきでしたが、それでも友だちとはたくさんの楽しい時間を過ごしました。休み時間に本の話をしたり、いっしょにとしょしつで過ごしたりするのが、私の日常でした。今ふり返ってみると、このじきに学んだ「ちしきを得る楽しさ」や「他の人と協力する大切さ」が、今の私の成長に大きくえいきょうを与えていると感じます。

■ 高校時代：バレーボール部と初めてのバイト

私の高校時代は、とても充実していました。高校に入学してすぐ、私はバレーボール部に入りました。バレーボール部では、毎日のように練習がありました。体力的にはとても大変でしたが、チームでいっしょにもくひょうを目指すことが楽しかったです。試合に勝つためにみんなでがんばり、勝ったときのよるこびは、今でも忘れられません。部活では、特に「チームワーク」の大切さを学びました。一人ではたっせいできないことも、みんなで力を合わせればたっせいできるというけいけんは、私の中で強く残っています。

一方で、高校時代に初めてアルバイトを始めました。近所のパン屋さんではたらいたのが、私のさいしょの仕事けいけんです。パン屋さんでは、せっきやくやお金の管理、そしてお客さまとのコミュニケーションを学びました。お客さまにえがおで「ありがとう」と言ってもらえると、とてもうれしかったです。このアルバイトけいけんが、のちに自分のカフェを開く夢につながったと思います。せっきやくの楽しさや、お客さまとのふれあいの大切さを、このときに知りました。

パン屋での仕事は朝早くからのきんむもあり、学校のべんきょうやぶかつどうとの両立がむずかしいときもありましたが、そのけいけんが私を成長させました。時間を管理する大切さや、どんなにつかたれていてもえがおで対応するプロのいしきを学んだことは、今でも私の仕事に生きています。

とく
特に、パン屋のオーナーから学んだ「お店のふんいき作り」や「お客さまを大切に
せつ
心にする」は、現在のカフェ経営にもとてもえいきょうをあたえています。
また、高校時代の友だちとは、今でもときどき会います。当時の部活の仲間と
いっしょに集まり、昔話をしたり、いっしょにご飯を食べたりすることが、私
にとっての大切なリフレッシュの時間です。高校で学んだ「チームワーク」や
「せきにんかん」、そしてアルバイトで得た「せっきゃくの楽しさ」は、今の
わたくし
私のカフェ経営に欠かせないようそとなっています。

■大学時代：経営学を学び、夢がめいかに

だいがく じだい わたくし じんせい おお
大学時代は、私の人生において大きなきとなるじきでした。私は神奈川県
しりつ だいがく しんがく けいえいがく まな けいえいがく まな
にある私立大学に進学して、経営学を学びました。経営学を学ぶことで、ビジ
ネスの基本やマーケティング、ざいむ（お金）のちしきを身につけました。特
にマーケティングのじゅぎょうでは、しょうひん やサービスをどのようにしてお客さ
まに届けるか、その方法を学びました。

これが、のちにカフェをけいえいするときにとてもやくだつちしきとなりました。大
がく
学でのじゅぎょうはきょうみ深く、カフェを開きたいという夢がより現実的な
ものへとかわっていきました。

だいがく じだい わたくし
大学時代、私はカフェでアルバイトをしていました。このアルバイトけいけん
は、私にとってとてもきちょうなたいけんになりました。大学近くにあった小
さなカフェで、せっきゃくやドリンクの作り方、そしてお店を運営する基本を
まな
学ぶことができました。お客さまとのやり取りの中で、私が本当にやりたいこ
とは「自分のお店を持ち、自分らしい空間を作ることだ」と感じるようになり
ました。アルバイト先のカフェのオーナーも、私が将来カフェを開きたいとい
う夢をゆうえんしてくれて、たくさんのアドバイスをくれました。

また、大学では「旅行サークル」にも入っていました。このサークルでは、日
ほんぜんこく
本全国のさまざまな場所をおとずれ、かんこうち めいぶつりょうり たの
観光地や名物料理を楽しみました。サー
クルかつどうを通じて、いろいろな地域の文化や料理に知ることができたのは、
いま けいえい やくだ とく ちいき
今のカフェ経営においても役立っています。特に、地域のとくちょうを活かし
たメニューを考へるときに、このけいけんが大きなヒントになっています。

大学時代には、2年間付き合っていた恋人もいました。彼とは将来について話すこともありましたが、卒業したあと、彼が東京の大手企業にしょうしょくしたことで、えんきよりれんあいが始まりました。お互いの生活が忙しくなり、次第にれんらくが少なくなってしまう、結局別れることになりました。このれんあいけいけんも、私にとって大きな学びとなり、自分自身の成長につながりました。

大学でのべんきょうやアルバイト、サークルかつどうを通じて、私は「カフェを開きたい」という夢がはっきりイメージするようになりました。大学時代に学んだちしきやけいけんが、今の私のきばんとなり、カフェ経営においてとても役立っています。

■社会人時代：大手企業でのけいけんとしてんき

大学を卒業した私は、神奈川県にある大手企業のえいぎょうぶにしょうしょくしました。えいぎょうという仕事は、初めてのことがばかりでさいしょはとても大変でした。新しいかんきょうで毎日覚えることが多く、ときには失敗して落ち込むこともありましたが、上司やどうりょうのサポートのおかげで少しずつ仕事になれていきました。

えいぎょうの仕事は、お客さまのしんらいかんけいが大切です。そのため、どのように話を聞き、相手が本当に求めているものをみきわめるかをいつも考えていました。この「お客さまのニーズにこたへる」という考えは、のちにカフェを経営するときにもとても役に立ちました。

えいぎょうの仕事をつづける中で、私は多くのスキルを身につけることができました。プレゼンテーションのぎじゅつやこうしょうりよく、時間管理の大切さなど、社会人として必要なスキルはすべてここで学んだと言ってもいいと思います。また、仕事でおとずれたお店やレストランでのけいけんが、私のカフェへの夢をさらに強くするきっかけになりました。お店のふんいきやサービス、料理のしつなど、どの店にもこせいがあり、「私もいつか自分のお店を持ちたい」という気持ちがだんだん大きくなっていきました。

そんな中、私が29歳のときに、ついにてんきがおとずれました。

仕事自体はじゅんちょうで、会社の中でもそれなりにひょうかを受けるようになっていましたが、心の中では「このまま会社員をつづけていても、私は本当にまんぞくできるのだろうか？」というぎもんが強くなっていきました。会社での安定したキャリアをえらぶか、それとも自分の夢であるカフェ経営にチャレンジするか、とてもなやみました。しかし、夢にチャレンジしなければこうかいすると思ひ、ついに会社をやめてカフェを開くけついを固めました。

たいしょくしたあとは、カフェをオープンするためのじゅんびを始めました。物件探しやメニューのはいはつ、インテリアのデザインなど、全て自分で決める必要がありましたが、えいぎょうでつちかった「計画する力」や「もんだいはいけつこのうりよく」が大いに役立ちました。また、これまでに出会った多くの人たちからもたくさんのアドバイスをもらひ、少しずつ夢がかたちになっていきました。

こうして、社会人としてのけいけんをつんだ私は、ついに自分のカフェを開くという夢に向かつて一歩をふみ出すことになったのです。

■ 起業とチャレンジ：カフェ「Cafe Yui」のオープン

29歳で会社をやめ、私は自分の夢であるカフェを開くために本格的にうごき出しました。さいしょにとりかかったのは、カフェのコンセプト作りでした。

「地元のしんせん食材を使った料理をていきょうし、人々が集まってリラックスできる場所を作る」というアイデアが、私の心に強くありました。地元の農家と協力して、しんせん野菜や食材を取り入れたメニューを作ることにしました。メニューはいはつでは、地元の野菜を使ったサラダや、抹茶を使ったスイーツを考えました。特に抹茶チーズケーキは、すぐにお客様に大人気になりました。

次に、物件探しです。私は神奈川県かながわの鎌倉市かまくらにカフェを開きたいと思っていました。鎌倉はかんこうちとして有名で、しぜんもゆたかでうつくしい場所です。地元の人たちにも愛されるカフェを作りたいという思ひが強く、少ししづかな住宅街にある物件を選びました。ないそうは、自分の好みに合わせてナチュラルなふんいきにして、木をベースとした温かみのある空間にしました。カフェの名前はシンプルに「Cafe Yui」と名付け、自分らしさを大切にしたい思ひをお店作りを目指しました。

そして、ついに31歳で「Cafe Yui」をオープンしました。オープンしたばかりのころは、地元の人々やかんこう客の人たちがたくさん来てくれ、じゅんちょうにスタートをすることができました。お客さまから「おいしい」と言ってもらえたときのよろこびは、何にも代えがたいものでした。

しかし、オープンして間もなく、思いもよらない大きなしれんがやってきました。それは、新しい病気が世界中に広がり、多くの人が外に出られなくなったことです。

カフェの経営は一気にきびしくなり、私もどうしたらいいのかなやみました。お店にお客さまが来ない日がつづき、閉店のききに直面しました。しかし、ここであきらめたくはありませんでした。私はすぐにテイクアウトサービスを始めすることにしました。お客さまが店内で食べられない分、家でも楽しめる料理をていきょうしようと、新しいメニューも考えました。また、地元の農家とさらに協力して、地域にねづいたビジネスとして再出発をする気持ちでこのもんだいに向き合いました。

お客さまや地元の方々の温かい支えもあり、少しずつ経営はかいふくしました。今では、お客さまがまたお店に戻ってきてくれ、カフェは再びにぎやかさを取り戻しています。私は、これからも地域とのつながりを大切にしながら、カフェを成長させていきたいと思っています。

■私の将来の夢：てんぽうんえいの成功とけっこん

現在、私はカフェ「Cafe Yui」を経営しながら、日々忙しくも充実した毎日を送っています。カフェが地域の人々に愛され、少しずつ安定した経営をつづけられるようになったことは、とてもうれしいです。しかし、私の夢はまだこれで終わりではありません。将来的には、さらにもう一つ、別の場所で2つ目のお店をオープンしたいと考えています。鎌倉という場所を中心に、もっと多くの人々に「Cafe Yui」の温かいふんいきとおいしい料理を楽しんでもらいたいです。

2つ目のお店を開くという夢は、私にとって新たなチャレンジです。今のお店は一人でうんえいしていますが、将来はしんらいできるスタッフといっしょにカフェをうんえいしていくことを目指しています。

そのためには、もっと経営スキルやマネジメント力を高める必要があります。これからも成長をつづけ、お客さまにとって居心地の良い場所をていきょうしつづけるために、常に新しいことにチャレンジしていきたいと思っています。

また、私は将来的に家庭を持ちたいと考えています。カフェ経営はやりがいのある仕事ですが、プライベートな時間も大切にしたいという思いがあります。自分のカフェを成功させながら、パートナーといっしょに温かい家庭をきずくことが私のもう一つの夢です。今はまだ仕事に集中していますが、いつか自分のパートナーといっしょに人生を歩んでいくことを楽しみにしています。仕事と家庭の両立はかんたんなことではありませんが、私はどちらも大切にしたいと思っています。家庭を持つことで、人生に新たなよろこびと安らぎが生まれると思いますし、そのけいけんがまたカフェ経営にも良いえいきょうを与えると信じています。私が大切にしている「かんしゃ」と「人とのつながり」というかちかんと、仕事だけでなく、家庭にも活かしていきたいです。

今後の私のもくひょうは、2つ目のお店の開店と、すてきなパートナーとのけっこんです。この両方をじつげんさせるために、これからも努力をつづけ、チャレンジを恐れずに前へ進んでいきたいと思っています。

■おわりに：人生から学んだこと

私がこれまで歩んできた人生には、たくさんのチャレンジと学びがありました。幼いころから両親に教えられた「かんしゃの心」や「チャレンジを恐れないせい」は、今の私のきばんとなっています。カフェを開くという夢に向かって進んできた中で、ときにはこんなに直面することもありましたが、そのたびに支えとなったのは、家族や友だち、そして地域の人々とのつながりでした。

特に、カフェをオープンして間もなくおとずれた新しい病気の流行は、私にとって最大のしれんでした。お店の経営がきびしくなり、どうやって乗りこえればいいのか分からなくなったときもありました。しかし、そのこんななじきを乗りこえるために、持ち帰りのサービスを始めたり、新しいメニューを考えたりと、常に前向きに工夫をするようにしました。そのプロセスで、私は「あきらめずに努力をつづけること」の大切さを学びました。

また、^{ちいき}地域の^{ひとびと}人々の^{あたたか}温かい^{いま}おうえんがなければ、^{かふえ}今の「Cafe Yui」は^{ゆい}存在しなかった^{おも}と思います。

これまでの^{かえ}けいけんを^{わたし}ふり返ると、^{ひとびと}私は^{ささ}たくさん^{いちにん}の人々に^な支えられて^たここまで^{まい}来ることが^{にち}できました。カフェの^{うんえい}うんえいは^{ひとり}一人では^{なりた}成り立たない^{こと}ことを、^{毎日}毎日^{じっかん}じっかんして^{います}います。お客^{さま}さま、^{じもと}地元^のの^{うか}農家^{かたがた}の方々、そして^{スタッフ}スタッフ^{との}との^{しんらい}しんらい^{かんけい}かんけい^{があ}あってこそ、^{わたし}私の^{みせ}お店は^{せいちょう}成長^{しつづ}しつづけて^{います}います。この「^{ひと}人と^のの^{つな}つながり」^{たいせつ}を大切^にに^{する}することこそが、^{わたし}私の^{じんせい}人生^のの^{じく}じくに^ななっています。

これからも、^{わたし}私の^{じんせい}人生^はは^{チャレンジ}チャレンジ^のの^{れんぞく}れんぞく^だだ^{とおも}おも^{います}います。カフェ^{けいえい}経営^をを^ささら^{には}は^{ってん}ってん^{させ}せて、^{ゆめ}夢^{である}である^{2つ}2つ^{目の}目の^{みせ}お店^をを^{ひら}開く^{こと}こと。そして、^{いつか}いつか^{かてい}家庭^をを^{もち}もち、^{しごと}仕事^とと^{プライベート}プライベート^のの^{りょうほう}両方^でで^{じゅうじつ}充実^{した}した^{じんせい}人生^をを^{おく}送る^{こと}こと^をを^{めざ}目指^{して}して^{いま}います。今後^もも、^{おほく}多く^{の人}の人^とと^ああ^いい^ひひ、^{まな}学び^{つづ}つづ^けけ^なながら^{せいちょう}成長^{して}して^{いき}いき^{たい}たい^{と思}思^{って}て^{いま}います。

さいごに、これまで^{わたし}私^をを^{ささ}支えて^{くれた}くれた^{すべて}すべて^のの^{ひと}人^にに^{かん}かん^{しゃ}しゃ^のの^{きもち}気持ち^をを^{つた}伝えた^のの^いい^{です}です。そして、^{これから}これから^もも^{ゆめ}夢^にに^{むか}むか^{って}って^{どりよく}努力^をを^{つづ}つづ^けけ、^{どんな}どんな^{こんな}こんな^{なん}なん^もも^ま乗り^ここ^{えて}えて^いい^{ける}ける^{よう}よう、^{まえ}前^をを^{むか}むか^いいて^{すす}すす^{んで}んで^いい^ききます。

「^{わたし}私の^{じんせい}人生」^はは^いい^かか^がが^でで^{した}した^かか。
コメント欄^{から}から^{かん}感想^をを^{みんな}みんな^にに^{おし}教えて^{ください}ください。
それでは、^{また}また^{べつ}別の^{どうが}動画^でで^ああ^いい^ししまし^{ょう}ょう。



Japanese-listening-SUSHI

